２０２５年度の事業報告書

２０２５年４月１日から２０２６年３月３１日まで

認定特定非営利活動法人　京都 DARC

Ⅰ　事業の成果

■障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス

２０２４年度に引き続き、共同生活援助（介護サービス包括型）事業をネクサス１，２にて、自立訓練（生活訓練）事業をデイセンター・マハロにて行った。２０２６年３月末のグループホーム・ネクサス１，２への入寮者は１１名、デイセンター・マハロへの通所登録者は１８名であった。

■京都 DARC での相談援助事業

薬物依存症者及びその家族の相談援助事業は薬物依存症者３２件、薬物依存症者の家族３７件、関係者１９件の電話相談や来所面談等を行った。家族カウンセリングは、５０件であった。家族プログラムは１２回行い、参加者平均は７．８名であった。

■デイセンター・マハロでの依存症当事者回復支援

毎週月～土まで、依存症当事者回復支援として、主に下記のプログラムを行った。

① ミーティングプログラム

依存症からの回復を目指す当事者が、意欲や行動を継続できるよう支援するために、お互いの体験を分かち合うミーティングを１日２回実施した。

② 調理プログラム

利用者の生活自立支援の一環として、調理プログラムを継続的に実施した。また、薬物などの依存物質を使用しない日常生活の再構築を目的に、季節感を取り戻す取り組みとして、季節ごとのメニュー作りにも積極的に取り組んだ。

■デイセンター・マハロでの回復プログラム（ボランティア等）と地域交流

回復プログラムの一環として、農作業やボランティア等の様々な事業を行った。

農作業プログラムでは、以前からお世話になっている亀岡市の農家の方の畑や田において、野菜や米作りを４回実施した。また、綴喜郡井手町の畑をお借りし、ニンニク等の栽培を 13 回実施した。井手町での活動については、これまで利用していた畑を返還することとなったため、2025 年度をもって終了した。

ボランティア活動については、喫茶店等でのボランティアを３７回、さらに週１回ネクサス１近くの公園・道路の清掃ボランティアを行った。また、東九条清掃ボランティア並びにセカンドハーベストの食料品配達等のお手伝いを通して、地域との交流を深めた。

地域のイベントである東九条春祭り、向島元気バザール等のイベントにて、たこ焼きや

フランクフルトの飲食販売を行い、地域との交流を深めた。さらに、京都文教大学の学生や、深草１００円マルシェに参加した子どもたちとともにアクセサリー作りを行い、交流を深めた。

■京都府薬務課、京都市との共同事業

２０２５年度も京都府薬務課との共同事業を行った。薬物依存症の電話相談「きょう-薬物をやめたい人-のホッとライン（薬物依存ホッとライン）」（京都 DARC 内に設置と広報している）では、１１件の電話相談があった。京都府北部の薬物依存症者に対する北部移動相談事業（舞鶴市）を１２回、「若年者向け薬物再乱用防止プログラム（明日への扉を今開こう!OPEN)」を１５回行った。

また、京都市との共同事業である、「京都市薬物依存症再発防止プログラム（KEEP)」の講師派遣は、１８回行った。

■薬物依存症・薬物乱用に関する知識・情報の普及啓発事業

２０２５年度は、京都 DARC２２周年記念フォーラムを開催した。当日は、当事者、家族、保健・福祉関係者、教育関係者、司法関係者、地域住民、学生等、約２００名の参加があった。

また、新たな啓発活動の一環として、「京都 DARC の日常紹介動画」の作成を計画していたが、２０２５年度中の実施には至らなかった。ついては、２０２６年度以降の実施に向けて、当該事業を持ち越すこととなった。

さらに、小学校高学年・中学生を対象とした「生きづらさ」や「偏見」に関する啓発活動として、若年層の依存症の背景にある「生きづらさ」や、依存症に対する偏見について理解を深めることを目的に、マンガ冊子を活用した啓発活動を行った。本冊子は、京都国際マンガミュージアムの協力のもと作成し、京都市伏見区内の小学校・中学校をはじめ、各種関係機関へ適宜配布した。

2　事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業

事業名		事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額（千円）
⑥障害者総合支援法に基づく障害者福祉サービス事業	①薬物依存症回復支援施設の運営事業	共同生活援助事業（介護サービス包括型）ネクサス1・2運営	365日	ネクサス1・2	7	（平均） 11.5名/日	39,499
	①薬物依存症回復支援施設の運営事業 ③薬物依存症者への生活支援事業	自立訓練（生活訓練）事業 デイセンター・マハロ運営 ミーティング、レクリエーション、昼食作りなどのプログラム	月～土 9:30～17:00 313日	デイセンター・マハロ	6	（平均） 13.4名/日	48,491
④薬物依存症・薬物乱用に関する知識・情報の普及啓発事業		書籍販売	随時	京都DARC	2	薬物依存症者とその家族・関係機関職員等	0
②薬物依存症者及びその家族への相談援助事業		薬物依存症者相談	随時	京都DARC	13	32件/年	1,320
		家族・関係者相談	随時	京都DARC	10	37件/年 薬物依存症者家族 19件/年 関係者	
		ホッとライン相談	随時	京都DARC	10	3件/年 薬物依存症者 6件/年 薬物依存症者家族 2件/年 関係者	
		インターベンションプログラム	随時	各拘置所・留置施設	10	40件/年	
		家族プログラム	12回/年	京都DARC	1	（平均） 7.8名/回 薬物依存症者家族	
		家族カウンセリング	随時	京都DARC	1	50件/年 （75.5時間）	
		京都府北部薬物依存症者に対する移動相談	12回/年	舞鶴医療センター	5	（平均） 3.9名/回 薬物依存症者・関係機関職員等	
		刑務所等における薬物離脱教育指導講師派遣	45回/年	各刑務所・拘置所	5	薬物依存症者	
		更生保護施設盟親健康学習会講師派遣	8回/年	更生保護施設盟親	1	（平均） 6名/回	
		OPEN「若年者向け薬物再乱用防止プログラム」講師派遣	15回/年	キャンパスプラザ	2	（平均） 4名/回	

	ＫＥＥＰ「京都市薬物依存症再発防止プログラム」講師派遣	18回/年	京都市こころの健康増進センター	1	薬物依存症者	
	「薬物再乱用防止プログラム」講師派遣	24回/年	京都保護観察所	2	薬物依存症者	
④薬物依存症・薬物乱用に関する知識・情報の普及啓発事業	ニュースレター発行	6回/年	京都ＤＡＲＣ	4	1300部/回	
	フォーラム開催	1回/年	京都府内	15	２００名/回	
	出張フォーラム開催	0回/年	京都府内	0	0	
	各種研修会等講師派遣（関係者・PTA・福祉等）	7回/年	全国	6	１００名/回	
	学校・高校・大学への講師派遣	14回/年	関西圏各学校	6	中学・高校・大学の生徒教員及び保護者等約１５０名/回	
	他機関との協力・連携（市こころの健康増進センター・府精神保健福祉総合センター等）	15回/年	全国	6	薬物依存症者、関係機関職員	
	ホームページ上でのダルク日常紹介動画投稿準備	随時	京都DARCホームページ	2	薬物依存症者、関係機関職員	
	小学校高学年、中学生向けの「生きづらさ」「偏見」についての啓発	随時	京都市伏見区内の各小学校・中学校	4	小学校高学年、中学校生徒、教員及び保護者等	
⑤薬物依存症者の社会復帰促進事業	喫茶店等でのボランティア	37回/年	バザールカフェ	3	（平均）3.5名/回	
	地域でのボランティア	51回/年	京都市	10	利用者	
	就労相談	随時	京都ＤＡＲＣ	10	利用者	
	研修会参加	5回/年	全国	10	職員、利用者	
	農作業体験	4回/年	亀岡市	4	（平均）6名/回	
		13回/年	綴喜郡井手町	4	（平均）6名/回	
⑦その他この法人の目的を達成するために必要な事業	施設内研修	12回/年	京都ＤＡＲＣ	4	（平均）11.8名/回 職員、関係者	
	施設外研修	1回/年	全国	10	（平均）2名/回 職員、関係者	

（２）その他の事業　当該事業年度は実施しなかった。